

1. 動機及び目的

私は今まで部活や普段の生活において多くのスポーツイベントに参加してきた。その中でいろんな疑問や不満もあった。しかしその不満は誰の耳に入ることもなく、また聞かれることもなかった。このような経験は私のみに感じていることではなく、誰もが一度は感じたことはあるだろう。こう考えたとき「いったいスポーツイベントとは誰のために行われているのだろう」という疑問が起こった。「イベントの多くは主催者側の一方的な企画、運営、評価にとどまっており、参加者の立場に立った評価や調査はほとんど行われていないのが現実である」と言われている。なかにはイベントに対しての不満により、もうそのイベントには行きたくないという人もいるだろう。またもっとこうしたいのになという意見を持った人もいるだろう。ならばもし参加者の立場に立ったスポーツイベントが出来たらどうなるだろうか。

よって本研究では地域活性化を目指して行われるスポーツイベントに注目し、参加者がどのような意見をもってイベントを評価しているのかを見ることで、参加者の立場にたったスポーツイベントについて検討することを目的とする。

2. 金沢市民マラソン大会概要

金沢市民マラソン大会は平成6年から始まっており、現在で第8回目を迎えている。種目数は平成6年から3 km、5 km、10 kmの三種目であり、種目数に至っては現在まで変わっていない。参加者はファミリーの参加は小学生3年以上、一般参加の方は小学生4年生以上ならばだれでも参加できる。しかし年齢によっては参加できる種目とそうでない種目があり小学生、中学生は教育関係上3 kmのみの出場となっており、高校生の女子は5 kmのみ、男子は5 km、10 kmに参加できる。一般の方は男性、女性関係なく全ての種目に参加できる。またファミリーでの参加の場合3 kmのみの出場となっている。

参加人数は平成6年当初約2500人で、そこからだんだんと人数が増え、第6回大会においては、最高の4700人超を記録し、第7回大会では4677人、現在の第8回大会は4246人となっている。

参加料は高校生以下無料となっており、それ以外の方は一人1千円となっている。

参加賞としては、参加者全員に記念Tシャツが送られ、完走者に対しては記録証が、1～8位の方に関しては賞状、メダルまたは盾が送られる。

10 kmの部のコースについては、金沢市の中心街をぐるりと回るコースが設定されている。

3. 研究方法

研究方法

アンケート調査及びインタビュー調査。本研究はあくまで参加者の意見をもとに研究を進めていくものである。インタビューはその考察の補足、または参考としてとらえる。

研究内容

・アンケート調査

アンケートは主に参加者の属性、参加者のランニング状況・意識について、金沢市民マラソン大会について、金沢市民マラソン大会の大会評価、参加継続意欲について聞いている。

・インタビュー調査

インタビュー内容は主に大会の歴史、大会の目的、大会の概要、参加種目の内訳、参加者のレベル、参加者の年齢層アンケート調査の実態継続意欲など大きく分けて8つの項目を聞いている。

4. 結果と考察

アンケート結果

- ・性別については、男子289人（82.1%）、女子63名（17.9%）で男性の割合が多くを占める結果となった。
- ・男性女性ともに、10代、60代の参加数が低い値を示した。平均は44.7歳である。
- ・ランニング習慣は性別、年齢別どちらを見ても8割以上の人が週1回以上ランニングをしており大変運動週間の高い集団であることが分かった。
- ・参加者は常に健康・体力の維持・向上に関心が高く、ランニングを始めたきっかけや大会さんかどう期はその点が強く関係していることが分かった。また参加者は「社交」に対してはあまり関心を示しておらず、ランニングに対しても、大会に対しても必要としていないもしくは期待していないことが明らかとなった。
- ・参加回数は1回（初参加）と答えた人が88人（25.0%）であり、参加経験者は75%であった。このことから大会参加者の固定化が進行していることがうかがえた。
- ・運営評価については全体的に高い値を示した。そのなかで「イベント開催場所」、「イベントの時間帯」、「参加費」など特に良かったところで多くの人が答えている。一方特に良くなかったと答える人が多かった項目は「イベントの時間帯」、「イ

ベントの地理的利便性」などであり両者とも企画部門の項目であった。

- ・参加継続意欲は9割以上の人が次回も参加したいと答えており、高い値を示した。

考察

参加者の立場に立ったスポーツイベントの活性化を考えるうえで、「誰もが、気軽に、楽しく、継続して」参加できることが目標となるであろう。このとき「誰もが、気軽に」は初参加者のことを指し、「楽しく、継続して」は継続参加者のことを指している。このことからスポーツイベントの活性化を考えたとき初参加者を増やすこと、そして参加した人が継続して参加することが大切であるといえる。そのため考察として「初参加者の参加動機」と「参加者の継続参加要因」の視点で試みた。

・初参加者の参加動機

初参加者は体力に関する身体的要因に関心を示しているようである。そしてここで注目したいのが「仲間が参加するから」という社会的要因が高い値を示していることである。この項目は大会参加者全体では低い値を示しており、初参加者の特徴的な動機といえよう。このことから初参加者は身体的要因に加えて、仲間の存在が大会に参加する大きな動機となっているようである。

・女性の参加動機

大会の結果では、男性参加者が846人、女性参加者が142人という結果がでている。これによると男性参加者が女性参加者よりも700人近くの多い人数参加している。「誰もが、」参加してもらいたいことを考えると、女性参加者により多くの人の参加が望まれる。女性は参加経験関係なく身体的要因である項目とともに、「仲間が参加するから」が高い値を示していた。また女性の初参加者の方が、男性初参加者よりも大会参加動機として仲間の存在が強く関わっている傾向を示しているようである。この結果より、女性においては参加経験関係なく、仲間の存在が参加動機に強く関係していると言えるのではないかと。以上のことから初参加者を増やすためには「仲間」を意識した取り組みが重要となることが推測される。

・運営評価と参加継続意欲との関わり

本研究では、次回参加しないと答えた参加継続意欲の弱い人達と参加すると答えた参加継続意欲の強い人達の運営評価を比較した。その結果、参加継続意欲の弱い人の運営評価の得点は強い人の得点の全てに下回った。多くの研究者は「運営評価が高いほど参加継続意欲は強い」といっている。本研究が先例と類似した結果が出たことを考えると、本研究においても運営評価が高いほうが、参加継続意欲が強いことを指示することが出来るであろう。

・継続参加要因

運営評価が高いほど、参加継続意欲が強いことをふまえて考えると、運営評価が継続参加要因に関係していることがわかる。よって運営評価をみる。仲間の存在が初参加者の参加動機に強く関わっていることは先にも述べたとおりであるが、参加経験者にいたっては、「仲間が参加するから」の項目が低い代わりに「記録への挑戦」の項目が初参加者よりも高い値を示している。このことから考えられることが、参加経験者には自発的要求が高いということである。これは参加者に余裕が生まれたことによるものではないかと推測する。初参加者よりも参加経験者の方が運営評価の得点は高く、ここで注目するところが「開催場所」、「時間帯」、「地理的利便性」、「広報」、「参加費」の得点が上回っていることである。このことから考えられることは、大会参加経験があるために、大会へのアクセス、大会の内容、情報の収集方法などがやりやすかったのではないかということである。参加費は参加経験があるため納得して払っていることが考えられる。初めての大会参加は大会の内容、アクセス、情報など実際に見ていないために不安が付きまとう。そのため仲間の存在が初参加者にとって重要な位置を示しているのだと考えられる。以上のことから、余裕が出てきた参加者に継続参加してもらうためには、今現在の要求に応える必要があり、参加者の自発的要求にさらに応えていく必要があると考えられる。

5. 結論

本研究では地域活性化を目指して行われているスポーツイベントとして金沢市民マラソン大会を取上げ、参加者の立場からのイベント評価を明らかにすることを目的とした。その結果以下のことが明らかとなった。

- 1) 参加者の8割以上が週に1日以上ランニングしており、常に健康・体力の維持、向上に勤めている集団である事が明らかとなった。
- 2) マラソン大会の参加動機は賞がほしいや、入賞したいというものよりも記録を伸ばしたい、体力レベルの確認・向上したいという身体的要因のほうが強いことがわかった。
- 3) 大会運営については7割以上の参加者が満足していた。しかしイベントまでのアクセス面やイベントのサービスなどでの不満も高く改善していく必要がある。
- 4) 回答者の9割以上が次回大会への参加希望を示した。